

私の一冊

社会福祉学科 土切ゆかり 先生

パウロ・コエーリョ著 『アルケミスト』

小鹿図書館 : 969/C 83 (角川書店)

この本はいつも私に勇気と希望を与えてくれます。

この本との出会いについて、みなさん、ちょっとだけ私の回想にお付き合いくださいね。

今から 8 年ほど前、私はタイ北部の都市、チェンマイという町で暮らしていました。そのころの私は、勤めていた病院をやめて、ひとりでこの街での生活をはじめていたのです。看護師をしていた私にとって、毎日の仕事はやりがいのあるものからいつしか苦痛に変わっていたのです。自分の能力以上のことを求められ、自分のやっていることに自信をなくしかけていました。このまま働き続けていたら看護師としての自分に誇りをもてなくなってしまうのではないかと、視野の狭い人間になってしまうのではないかと思うようになりました。そして、いつの日か、年に1度旅をするタイで生活したいという思いが強くなり、一度きりの人生を自分の責任と決断に任せてみよう決めました。タイに行って何をするのか、とよく人に聞かれました。でも、はっきり分かっていたのは、そこに行くことが目的で、そこから私は肩書きも重圧もなくなって 1 人の人間として自由に何でも学べるのだと思ったのです。

私にはチェンマイのタイ語学校で知り合って以来の大親友がいます。彼女とは学校が終了してからも一緒に勉強したり、ボランティアに出掛けたりと互いに刺激しあえる関係でした。その親友を訪ねてきた彼女の幼馴染が「私のバイブルみたいな本よ」と持参した本が「アルケミスト」でした。親友からその本を借りて読み始めると一気に物語の世界に引き込まれ、いつしか私は主人公の少年サンチャゴと自分の人生の決断を重ね合わせていました・・・

私の回想はここまでにしてここでちょっと本のあらすじを紹介しますね。

スペインのアンダルシアで羊飼いをしていた少年サンチャゴは、羊たちと一緒に生活し、食べ物と水を求めて旅をしていた。神様について学ぶことより、どうしても旅がしたかったサンチャゴは両親の望んだ神学校を中退し、羊飼いになったのであった。ある日、少年は羊たちを連れて、見捨てられた教会にたどりついた。そこは屋根が朽ち果て、祭壇だった場所に大きなイチジクの木が生えていた。そこで少年は不思議な夢を見た。1 週間前に見た夢と同じ夢だった。その夢は、こどもたちが自分の手を取りエジプトのピラミッドに連れて行き、ここに来れば隠

された宝物を発見できるよと言ったのだった。

羊とともに訪れた街でサンチャゴは不思議な老人と会った。みずぼらしい格好をしたその老人はセイラムの王様だと名乗り、彼の宝を探す旅の後押しをした。「運命とはおまえがいつもやりとげたいと思っていたことだよ。誰でも若いときは自分の運命を知っているものなのだ。まだ若い頃は、すべてがはっきりしていて、すべてが可能だ。夢を見ることも、自分の人生に起こってほしいすべてのことにあこがれることも、恐れない。ところが、時がたつうちに、不思議な力が、自分の運命を実現することは不可能だと、彼らに思い込ませ始めるのだ」

「おまえが何かを望む時には、宇宙全体が協力して、それを実現するために助けてくれるのだよ」

王様は彼を祝福し、神様が残してくれた前兆に従って宝物を探すように伝えた。小年は羊を売り、船でアフリカに渡り、タンジェという港町についた。しかし、言葉もわからない彼は、羊を売ったお金を騙し取られてしまう。一文無しになった少年は、あるクリスタル商人の店で働き始め、1年の間に言葉を覚え商売も繁盛させた。少年はアンダルシアに帰るだけの十分なお金を手にしたが、夢を追ってエジプト目指してキャラバンとともに砂漠を渡る決意をした。そのキャラバンには、錬金術師(アルケミスト)を探し続けているイギリス人もいた。ともに旅をしていく中、部族間の大きな戦争をさけるため、砂漠のオアシスに避難することになった。そこで少年は運命の女性ファティマに出会う。一目見ただけで、少年は彼女が運命の女性だと認識しプロポーズした。彼女は、男が自分の運命を追及するのを、愛は決して引き止めはしないと、大いなる魂に導かれる宝探しの旅を後押しした。

少年はオアシスで出会った錬金術師とともにピラミッドに向かった。途中、幾多の困難に出会ったがそれを乗り越え、ピラミッドの目前までたどり着き、そこで錬金術師の作った金塊を渡され彼と別れた。とうとうピラミッドにたどり着いた少年は、神や今まで出会ったすべての人に感謝し、泣きながら砂を掘り続けた。そこに戦争をしている部族が現れ、「宝物を探しに来ただけだ」と訴える少年を暴行し金塊を奪い取った。部族のリーダーがこう言った。「お前は生きのび、人はそんなに愚かではいけないと学ぶだろう。二年前のことだ。スペインの平原に行き、羊飼いと羊たちが眠る見捨てられた教会を探せという夢だった。そのイチジクの木の下を掘ればそこに隠された宝物を見つけるであろうと俺は言われた。何回も同じ夢を見たからといって砂漠を横断するほど俺は愚かではない」……

そう、皆さんもうお分かりですよ。宝は少年が夢をみたあの教会のイチジクの木の下にあったのです。少年はそれを掘り出し、ファティマのもとへ戻っていくのです。この物語が語り続けているメッセージはたくさんあります。でもせっかく宝が自分のすぐ下にあったのに、わざわざそれを知るためにエジプトまで行くなればかばかしい、と思った人はいませんか？そう、すべてのことは無駄ではなかったのです。少年は、人生で必要なことはすべて旅を通して学んだ

のです。前兆に気付くこと、自分の心に従うこと、夢を実現することを恐れないこと。

私は自分の人生について悩んだときはいつもこの言葉を思い出します。

「おまえが何かを望む時には、宇宙全体が協力して、それを実現するために助けてくれるのだよ」

タイで様々な体験をし、日本に戻った私は、自分のかかわっていた世界の素晴らしさや尊さに気付いて、今こうして皆さんと一緒に学び、過ごす機会を得ています。みなさんも、それぞれの夢を持ち、挫折しそうになることもあるかと思いますが、その困難の中にこそ学びがあり、夢に向かう大切なプロセスであったことに気付くことでしょう。この本はそんな人たちに力を与えてくれることと思います。

この物語は、ブラジル人の作者が世界各地を放浪した経験が基盤になっていると思われます。1988年に出版されたこの本は、サン・テクジュペリの「星の王子様」と並び称され、各国で文学賞を受賞し、世界的なベストセラーとなっています。またこの本を翻訳された山川紘矢、亜希子夫妻は、他にも有名なスピリチュアルブックを翻訳しているので、この名をご存知の方もいると思います。「アルケミスト」の中には思わず線を引きたくなるような珠玉の言葉、メッセージがたくさん詰まっています。あらすじだけでは伝えきれないことがたくさんあるので、是非一度読んでみてくださいね。